

令和7年度第2回草津市文化振興審議会 会議録

▼日時：

令和8年2月26日（木）13：30-15：30

▼場所：

草津市役所6階 教育委員会室

▼出席委員：

松本会長、鎌谷委員、澤委員、成田委員、村木委員

▼欠席委員：

大塩副会長、富田委員、中村委員、涌井委員、垣東委員

▼事務局：

藤田教育長、高岡部長、安藤副部長、山田生涯学習課長、伊藤生涯学習課長補佐、近藤主事

▼傍聴者：

0名

1. 開会

【教育長挨拶】

皆様こんにちは。教育長の藤田でございます。

本日は公私ともに御多用のところ、令和7年度第2回草津市文化振興審議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

皆様方には、日頃から、本市の文化振興に御理解御協力をいただき、この場をお借りいたしまして感謝申し上げます。

さて、昨年は『大阪関西万博』が盛大に開催されましたが、世界各地の多種多様な文化の魅力に触れられる大変素晴らしいイベントであったと感じた次第でございます。

私も会期中5回ほど足を運び文化の魅力を堪能する中で、文化とは、世界各地において、地域の人々が自然や歴史を背景に長年かけて築き上げてこられた、唯一無二のものであると改めて実感いたしました。

本市におきましても、これまで脈々と引き継がれてきた有形無形の文化財や伝統行事、食文化等も含めた数々の文化がある中で、継承者の不足や、市民の皆様の生活スタイルや価値観の変化といった要因から、これらの文化の保存継承が今後の課題となっております。

そういった課題もございますが、文化は、地域での交流といった人々との繋がりや絆を深める力を持っている重要なものであると常々感じております。

本市において、いかにその文化を広げ、振興していくのかを『草津市文化振興計画』において定めているところですが、本計画の改定の時期が令和9年度末に近づいております。本日の審議会では、次期の計画策定に向けての現状報告を初め、策定スケジュールなどについてご報告させていただきますので、委員の皆様のご様々なお立場や御経験、また御見識により御審議を賜りますようお願い申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしく願いいたします。

2. 報告事項

▼報告事項（1）令和7年度の重点プロジェクトにおける事業展開について

【事務局】

<資料に基づき説明>

【会長】

前回の審議会での意見を受けとめて、聞き置くだけでなく、担当課に下ろしてフィードバックする審議会は珍しい。学識経験者、団体から来られている方、市民公募の方に関わらず真剣に受け止められている。会長と事務局の端的なやり取りだけでなく、委員それぞれが主観でもいいので意見を出しあう審議会が望ましい。委員が10人集まれば、主観的な意見であってもバランスは取れてくる。

【A 委員】

審議された意見が取り上げられ、具体的に政策に反映されるところが見えた。また、自分のこどもの吹奏楽部での活動が市の文化事業に繋がっているなど、審議会委員になって初めて市の文化事業との身近な繋がりに気づく部分もあった。

【B 委員】

以前、奈良県の先生と話す機会があり、草津にある雑貨店や世界各国の飲食店、琵琶湖岸が魅力的でよく来られると聞いた。草津に住んでいても魅力に気づけないことがあり、

県外の方の目線で魅力に気が付くこともある。昔からの伝統文化も大事だが、今ある文化を大事にしていくことも、人を惹きつける力があるのではないかと感じた。

また、先日、市内の小学校6年生を対象に劇団四季のミュージカルを鑑賞する「こころの劇場」が実施されたが、こどもたちは芸術性の高いものを見ると非常に感化される。自分たちでも劇やコント、お笑いをやるなど、こどもたち自身が発表したり発表したものを受け取ったりしたい気持ちを持っている。今後も学校でも発表の機会を作っていきたいが、市でも色々な体験事業が行われており支えられているのだと感じた。

【会長】

昔、STEM教育といって、サイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、マスマティクスの理系分野における教育に力が入れた。それが近年、STEAM教育と言われるようになり、アートのAが追加され、こどものときにアートに触れることで柔軟性を養うことが重要視されてきている。

【C委員】

審議会の場で言った意見がこれだけ反映されることで委員の一言の重さを実感し、個人的な意見を自由に言うというより、市民のためにどういうふうに生かせるかという意見を言わないといけないというのがプレッシャーにもなり得るので、気持ちを引き締める必要を感じた。

【会長】

委員が全員出席し10人いれば自由に意見を言いやすいが、本日は欠席も多いので、市民を代弁しなければならないという意識になってしまう。

【C委員】

資料1を中心に、4点質問がある。

- ①目標に対する達成率が100%を大きく超える基本施策が複数あるが、目標の100%に向かって施策を進めていく流れの中で、目標を大きく上回ることはあまりないのではないかと思う。果たして目標設定が妥当だったのか。
- ②基本施策6と9に係る事業として挙げられている「文化をツールとしたまちづくり事業」で防犯・防災をテーマとしたことで、これらの達成率が高くなっているのであれば、今後この事業のテーマが変わることによる達成率の変動の予測はしているのか。
- ③基本施策2の「文化施設の活用及び充実」は、活用・充実と別れている中で、具体的にどちらの影響で49%という結果になったのか。例えば、100%を超える他の施策の色々な

事業の中で文化施設を活用しているのであれば、もっと数値は上がったはずだと思われる。

④資料2で令和8年に向けて検討していくと書かれている内容によって、資料1で達成率の低い基本施策とどのようにリンクして、達成率が上がっていくと考えているのか。

【事務局】

①目標設定の妥当性については、通常であれば計画期間の半分の5年経過時点で行う中間見直しを新型コロナウイルス感染症の影響で見送ったために、策定当初の指標のままとなっており、現状と乖離が出てしまっているところも確かにあると考えられる。次期計画の更新の際に、改めて現状を踏まえた妥当な指標を検討できればと思う。例えば、目標を大きく超えている基本施策6「高齢者、障害者等の文化活動の充実」は、文化教養講座への参加者数が指標となっているが、充実しているかを評価するのにその指標だけで足りるのか、ただ伸びているから良しとするのではなく、色々な立場、状況を踏まえられるような指標を意識して今後計画策定に取り組めたらと思う。

②「文化をツールとしたまちづくり事業」のテーマと指標の変動については、文化には幅広さがあるため、正直どうなるのかは見えないが、一つのことを続けるのではなくて、様々なことをやるということが重要だと考えている。防犯・防災分野で数年やってきたため、次は福祉分野での実施を考えている。

③文化施設の活用及び充実については、成果指標が文化施設の来場者数と設定されているため、昨年度工事をしたという事情から人数が減り、このような達成率となっている。

④取組みが達成率にどう繋がっていくかは、個々の達成率の数値の変動を見て来年度どうしていったらいいかということのを都度検討しPDCAサイクルを回しながら、数年単位の大きな見直しの中で数値が上がっているのか、そうでなければ違う施策を考えるとといったことを、委員の皆様との議論を踏まえてやっていけたらと思う。

【D委員】

元々、入口事業としてハードルを低くし、たくさんの方が参加できる事業を実施していたが、伝わっていない部分もあるので、赤ちゃん向け事業であればチラシに赤ちゃんマークや多目的トイレがある表示を必ず記載する等、発信に力を入れて実施している。赤ちゃん向けコンサートは、南草津では民間の団体が多く開催する等盛んにおこなわれている。クレアホールでも「アートスタート」を開催したが、700人分ほどの整理券がすぐになくなり、ニーズが高い。オーケストラなど様々なジャンルで、赤ちゃんと御両親と一緒に来られるケースが増えてきている。今後も市と一緒に頑張る事業を実施していきたい。

【会長】

事務局に尋ねたいが、中学校の部活動が無くなるのはいつか。また、市によっては、国が部活動の地域移行を推進する方針でも、学校で部活動を続けるという意向もあるようだが、草津市はどのような流れになるのか。

【事務局】

部活動の地域移行については、まだ学習指導要領から消えないため、先の話である。国の方針では、まずは6年ほどかけて休日の部活動を完全に地域へ移行していく。ただ、休日ならまだしも、平日の移行を見据えると、社会全体で人手不足で、フルタイムで働く人が増えてきている中、地域の指導者がなかなか見つからないという点が、他市も含めての課題である。

ただ、学校の先生の時間外勤務が多くなっており負担が大きいのも事実である。部活動の実施する日数を減らすなどダウンサイジングし、こどもたちの活動の場を確保しながら先生の働き方を改善していく方向で草津市は既に取り組んでおり、実際、先生の負担も軽減し、こどもたちも規模は少し小さくなったが、楽しいという声が大半を占めている。こどもの放課後の居場所づくりや、先生とこどもたちの接触機会が減るなどの課題もあるため、こどもへの影響も考えながら検討していかなければならない。

【会長】

草津はこどもが多く、良い住環境、教育環境を求めて人が移り住んでくるため、文化部の在り方については次の計画においては触れる必要がある。

▼報告事項（1）令和7年度の重点プロジェクトにおける事業展開について

【事務局】

<資料に基づき説明>

【会長】

順番に、草津市に対するイメージや、次の計画に取り入れたらいいと思うことなどをお願いしたい。

【A 委員】

全体をざっくりとみると、本当に充実して満たされている印象がベースとしてある。

【B 委員】

本日視察に行く旧山内邸など、草津には魅力が沢山あるのに、私自身も知らないものがまだまだあり、もっとアピールできるのではないかと思う。

【会長】

次の計画では、子育てや福祉などの社会包摂も大事だが、都市の発信や、歴史文化によるまちづくりなども含めてバランスよく策定する必要がある。

【C 委員】

次期計画を策定していくにあたって、想定内で起こりうることと想定外で起こりうることを分けて考えることが大事である。新型コロナウイルス感染症の影響などは想定外に見えてこれからも起こり得ることかもしれないし、必ず起こり得る少子化や温暖化、災害などに対しては柔軟な対応が必要である。先ほど成果指標を見た中で、想定外の出来事が起こっていて数字が変動しているところもあるので、幅をもたせて策定していけるとよい。

また、新型コロナウイルス感染症蔓延後に変った点としてオンラインの活用があって、例えば自分の大学では平日の夜の講座でも 800 人ほど講義を聞かれる。働いている人にとっても、講演会などでオンラインを活用すれば興味を持ちやすいと思うので、オンラインの活用をもっと次の計画に盛り込めるとよい。

地元企業をもっと巻き込んで、一歩進んだ産官学の連携を図ることも重要である。

最近天津市でラゴ大津ができて、対岸から琵琶湖博物館の方に船が出たり、文化館が数年後にできたりといった県全体の文化の動きを踏まえて、その滋賀県内における草津、近畿圏内における草津という目線も、次の計画の策定に取り入れられるとよい。

【会長】

文化政策は、市民に向けた社会包摂なども大事であるが、文化施設の利用者の多くを市外の方が占めるなど、市外に奉仕する側面もあるため、市民だけでなく、市外に向けた都市の発信もやはり重要である。企業と連携した地場産業への貢献といったものが重要というのは同感である。

【D 委員】

文化ホール代表として滋賀県公立文化施設協議会の会議に年数回出席している。その中で出た話題をすぐに取り入れている文化ホールは守山市民ホールやびわ湖ホールなどが、草津市も滋賀県の中で発展している都市であるので、もっと文化面でも力を入れていくべきだと思う。私が会議で聞いたことを市へ情報提供し、連携しながら、必要なことを考えていけたらと思う。

【事務局】

いろんな観点からご意見いただき感謝する。経済や観光分野との連携などは次の計画を
発展させるうえでの課題であるが、地域に魅力や資源があり、それらに触れる市民の満足
度も高いということを土台にして発展していかなければならない。

【会長】

国スポ・障スポも終わり、文化行政を市長部局に移す可能性はないのか。教育委員会に
いる限りは観光やまちづくり、産業分野が極めて担当外になってしまう。

【事務局】

県内含め、全国的には市長部局に置く方向性だが、草津市では教育委員会に置くという
のが市長の考えである。地域の方々も含め脈々と作ってこられた歴史として、教育という
ベースを守りながら、それを観光分野にどう活用するか折り合いをつけていく必要がある
と考えている。教育委員会としては、今あるものを守り伝え、担い手を育てて草津らしさ
を継承していくことが仕事であり、それを売り出すのが観光担当部署と考えている。継承
があってこそ観光資源となり、まちづくりやシビックプライドに繋がっていく。

【会長】

全国的には文化行政を市長部局へ持っていつている中で、草津は教育委員会に置くとい
うのも何か草津の特色になるかもしれない。アオバナなどの地元資源を活用するうえで、
まず保存していかなければ活用できないため、教育委員会としては保存中心に計画を作
り、活用は、観光担当部署が中心となるのも作戦としてある。

3. 閉会
